

**授業概要**

暗号資産（仮想通貨）とは、インターネット上でやりとりできる財産的価値であり、「資金決済に関する法律」で、不特定の者と代金の支払いや法定通貨と相互に交換でき、電子的に記録され、移転でき、法定通貨やプリペイドカードのような法定通貨建ての資産ではないものとされています。また、ブロックチェーンは「分散型台帳」とよばれ、取引データを箱「ブロック」毎に時系列で記録し、インターネットの P2P ネットワークの参加者同士で取引履歴を共有し、改竄耐性を持つ生成された箱「ブロック」同士を鎖「チェーン」で繋いで蓄積し利用するものです。本講義では、暗号資産の種類や現状の普及状況を理解すると共に、ブロックチェーンの技術は暗号資産で使われるだけでなく、今後拡張の幅が広がり、様々な経済活動のプラットフォームとなる可能性についても言及し、その応用例について講義します。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション：暗号資産の意味と概要、ブロックチェーンの概要
第2回	暗号資産の種類と主な暗号資産の説明
第3回	暗号資産の利用例と課題
第4回	送金システムと暗号資産
第5回	暗号資産と電子マネーとの違い
第6回	世界の暗号資産の動向と日本の状況
第7回	ブロックチェーンとは
第8回	ブロックチェーンが注目される理由
第9回	ブロックチェーンが活用できるサービス例
第10回	ブロックチェーンのしくみ
第11回	ブロックチェーン技術（ハッシュ値）
第12回	ブロックチェーンの種類
第13回	ブロックチェーンのメリット・デメリット
第14回	ブロックチェーンの未来
第15回	これまでの学習内容のまとめ
第16回	期末テスト

本授業の到達目標は以下の2つとなります

- ①暗号通貨とブロックチェーンを理解し、説明できる
- ②技術的な内容と新しいサービスを産み出す価値や可能性を理解し、正しい活用ができる。

**履修上の注意**

本授業開始前に暗号資産とブロックチェーンについてインターネットで調べておくこと。  
※シラバスはクラスの状況、講義の進行状況によって変更することがありますので、予めご理解下さい。

**予習・復習**

次の授業の予習プリントを配布するので、その予習を次回までにしておくこと。知らない単語を予め調べておくこと。

**評価方法**

予習&ミニ課題の提出(10%)、②課題レポート(30%)、③期末試験(60%)

**テキスト**

必要な資料を配布します。参考書を別途指示します。